

平成24年 KIZUNA

平成24年1月1日発行

新春 TOP対談!



委員長

昨年は、歴史に残る激動の年だったと思いますが、どのような年だったかお聞かせ下さい。

社長

アラブの春からはじまり、東日本大震災、原発事故、それに伴う放射能汚染、EU金融危機、円高、タイの洪水、最後に北朝鮮最高指導者の死去、等々。これまでの概念ではおさまりきらない大きな天災・変革が続き、いまだに行き先不透明なものばかりでした。

特に3・11に起きた東日本大震災は、当社の従業員にもご家族やご親戚が被災された方々がいらっしゃいますが、被災地だけでなく、日本中が悲しみに包まれた天災でした。しかし日本全体がこの様々な課題に対し正面から受け止め、対応してきたことで、震災直後に大幅に落ち込んだ景気も、夏前には概ね震災前の水準に戻すことができました。

これは日本人の比類なき対応力の賜物であり、日本全体がこの状況を多くの“絆”という人と人とのつながりで乗り越えたのだと確信しています。

委員長

震災特需という言い方は、不適切かと思いますが、3・11以降のお客様の消費行動に、全従業員が一丸となって対応していた姿は、忘れられない記憶として心に残っています。

今後の流通業の見通しと、当社を取巻く環境についてお聞かせ下さい。

社長

震災による痛みを心の底に抱えたまま、原発や円高、消費税、年金問題など、様々なことが叫ばれ、将来への漠然とした不安感が続いています。そんな中、内需産業である流通業として、お客様が積極的に消費を拡大していただけるような環境を創出することが社会的責任であると考えています。

流通業界では、昨年の“イカとマカ”“アークとエバース”などを皮切りに再編は益々進むと思っております。郊外では5~6店単位での店舗の切売りがあがるなど、地方から再編が進み都心に入ってきている状況です。

都心でも“ローソン100”“まいばすけっと”“マルエツチ”などの出店が進むなど中小は厳しさを増しています。我々のエリアは、500m圏内に200世帯しかないような商圈ではないし、SMの出店余地のない都心でもありません。そういう意味ではまだ恵まれた商圈ではありますが、ヤマトが南下してくるなど当社の取巻く環境変化も活発になっています。

委員長

私もこの仕事をさせて頂いて、地方の同業種の方々とお話しする機会が多いので、企業再編の話はよく耳にします。また、三多摩という恵まれた商圈内に他社の出店が激化してきている事も肌で感じられるほどに、変化しています。こんな状況化だからこそ我々も変化をして行かなければならないと思います。

我々の取巻く環境が変化している中で進めてきた経営政策の中期2カ年政策の総括をお聞かせ下さい。



社長

残念ながら目標とした“全社客数前年比100%”は達成できていませんが、お客様から支持される為の人づくりには手ごたえを感じています。「接客向上コンテスト」では、お客様のお喜びを自分自身の喜びとして感じられる様子を目の当りにし、これこそが“商人道の実践”であり、伝え続けて行く事が“すこやけくの実現”に繋がるのだということを全員で共有することができました。

新生鮮・青果センター稼働やグループ統括管理センター開設など、ローコスト経営への形作りも進めてまいりました。またグループ人財交流や計画的な“ジョブローテーション”も徐々に行われています。

新たな顧客創造では、新店・改装・S/Bを計画通りに進め、ニューSSMは25店舗、inalは31店舗体制と今期中に計画しています。また、OTC医薬品販売の導入や注文宅配サービスの実験をし“新たな顧客創造”を実施してきたことで、次年度へ向けて良いステップができたと考えています。

委員長

政策を進めるにあたり、従業員の中には様々な思いを持って働いている人がいます。例えば「これだけ人を削られて教育なんてできないのに活力なんて…」こういう思いをどう感じているかお聞かせ下さい。

社長

人を減らす事が目的だと思わせてしまっている事を申し訳なく思っています。しかし今までと同じ仕事・作業をカバーし続けることを私は望んでいません。

今行っている仕事や作業の中身や手順に疑問を持ち、本当に必要かどうかを考え、止めたり変える事も含めてみんなで工夫していきましょう。

委員長

組合結成30周年の今期活動スローガンであります「**継続と挑戦**」で、人との繋がりを大事に**継続**し、新しい働き方へ**挑戦**し、個人の成長と会社の成長に協力して行きたいと思っています。

それでは最後に従業員へのメッセージをお願いします。

社長

世の中がこれだけ大きく変化する中、我々を取巻く環境も大きく変化を続けています。その変化を恐れずに新しいことにチャレンジすることが活力ある人・店作りであり、現場力のUPに繋がると考えています。

一人ひとりが現場で知恵を絞って新しい環境に挑戦し、お客様にもっともっとご満足いただける“いなげや”にみんなでしていきましょう!



掲示期限2012年1月末日